

議 事 録

1	会議名	富士見市基本構想審議会第4回会議
2	開催日時	平成22年2月9日（火）13時30分から16時
3	出席者名	委員：新井義明委員、市川正三委員、市川浩委員、伊藤悦子委員、上田威委員、大久保義海委員、小山健次郎委員、渋谷義衛委員、清水實委員、田中洋子委員、根岸由紀子委員、柳田政男委員 市側：奥村副市長、斉藤総合政策部長、斉藤政策財務課長、政策財務課（事務局）
4	傍聴者	1名
5	次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 協議事項：第4次基本構想の取組実績と今後の課題 （1）第2章 安全で快適に暮らせるまち （2）第5章 活気に満ちた産業のあるまち 4. 閉会
6	決定事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「②安全で快適に暮らせるまち」の大柱「防災・防犯対策の充実」から「⑤活気に満ちた産業のあるまち」まで議論した。 ・ 自主防災組織率の経年推移、災害時の備蓄状況を後日示すこととする。
7	議事内容	<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ</p> <p style="padding-left: 2em;">会長あいさつ</p> <p>渋谷会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回同様、第4次基本構想の取組実績を事務局で整理した後、市民会議や庁内の専門部会等で検討し、課題の整理を行った。 ・ 今回も課題の議論を進めてもらい、最終的には次の基本構想につなげたい。 <p>3. 協議事項</p> <p style="padding-left: 2em;">【第4次基本構想の取組実績と今後の課題】</p> <p>渋谷会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回議論した資料1の9ページまでの追加意見はあるか。 ・ （特になし） <p style="padding-left: 2em;">事務局説明</p> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大柱「防災・防犯対策の充実」に関連する行政水準等について、主なものを説明。 ・ 平成17年度に地域防災計画を改訂、平成18年度に大字水子の新河岸川河川防災ステーションを設置した。また、地域防犯パトロールの組織率は100%であり、市民青色パトロール隊も発足した。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民意識調査では、富士見市の将来像として「災害に強く、犯罪の少ない安心・安全なまち」が第1位で、多くの支持を集めている。 ・ 自主防災組織の組織率は38.6%に留まっているが、活動率は100%である。 ・ 災害状況について、災害の規模にもよるが、ポンプ場整備等により浸水被害が激減している。 ・ 主な課題は、地域住民との連携による地域防災体制の確立や都市型水害への対応を課題と考えている。 ・ 防犯についても地域と連携した体制づくりが課題である。
委員 事務局	<p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災組織率の積算方法及び組織数、組織率の経年推移を教えてください。 ・ 積算については、分母は市内全世帯数、分子は自主防災組織が形成されている地域の世帯数である。平成21年4月1日現在、分子は17,086世帯、分母は44,286世帯となっている。組織数は、現在25団体である。 ・ 経年推移については調査の上、後日報告する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害発生件数について、平成3～12年と平成13～21年では、件数が減っているように見えるが、前半の平成3～12年は大雨が多かったからではないか。新河岸川のポンプ場整備の影響もあると思うが、考えられる原因は。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポンプは平成3～12年に9箇所と重点的に整備している。もちろん雨量にもよるが、ポンプの効果も要因のひとつと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水谷東地区は、別所雨水ポンプ場の整備後、床上浸水被害は解消されている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ この施策の課題に「地域住民との連携」とあるが、ある団体では、個人情報に災いして、町会と連携がとれない状況にある。ここでいう「地域住民」とは何をさすのか。
事務局 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に町会、自治会をさす。 ・ 私の地区では、町会や民生委員などを巻き込んで「たすけあいネットワーク」という住民組織をつくりだした。個人情報は外に出せないなので、出してよい情報を自分たちで作った。 ・ この組織では、「情報を行政・町会・民生委員などで共有してよいか」を問い、理解いただける人が手を上げる手上げ方式を採用した。 ・ 手を上げない人に対しては、民生委員などが直接訪問して説明した。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一部では、全く無関心の町会がある。町会を動かすにはどうしたらよいか。また、前にも言ったが、ふじみ野駅周辺には新旧の町会があり、まとめられない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成10年以前は、「災害弱者」という言葉はなかった。その後法律改正を行い、個人情報に気をつけながら、災害弱者を最優先で助ける仕組みを作った。

委員	<ul style="list-style-type: none"> 私が住むマンションも1,200戸で大きく、町会がまとまらない状況である。このような場合は逆に組織を小さくした方がよく、数戸で構成されるブロック会議という集まりがある。ここでは隣や上下の家の状況が把握できる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 情報を公開したから助かるというものでもなく、普段から隣近所と話せるような関係が大切である。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 行政に、ある程度のリーダーシップをとってもらい、地域と連携してよりよい組織をつくっていくことが課題である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 学校などへの情報伝達をしっかりとってもらいたい。防災・防犯を担当する部局と教育委員会との連携を密にしていくべきである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 住民が当事者意識を持ち、避難所などは自分たちで決めるべきである。行政が指定した避難場所は実際には使われないことが多い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 話は戻るが、勝瀬などの大きい町会は町会組織そのものを見直した方がよい。自主防災や災害弱者への対応などあらゆる分野を会長1人でまとめるのは無理がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 空襲を体験した者は、近所づきあいの大切さ、協力の重要性が分かっている。行政に頼らず地域で助け合っていくべきである。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> よい組織ができるよう工夫していくことを今後の課題とする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 財政困難の中、災害時の備蓄は大丈夫か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な災害時の備蓄量などについては、確認のうえ後日報告する。
事務局	<p>事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 火葬場・斎場の主な課題として、南畑地区で火葬場が供用開始したので、引き続き周辺の環境整備が必要である。
渋谷会長	<p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> 周辺の整備は対象項目が多いため、引き続き整備する必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 斎場の建設はもめるケースが多い施設である。誰にでも必要な施設なので、そのことを認識し、受入れ地区に感謝すべきである。
委員	<p>(途中退席のため)</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の産業分野について一言、お年寄りが歩いていけるような商店街の活性化が必要である。
事務局	<p>事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 11ページ「⑤活気に満ちた産業のあるまち」の指標について、平成12年と平成17年の比較になるが、販売農家数、耕地面積とも減少している。 商業関係について、商店数、販売額とも減少している。 工業関係について、若干ではあるが事業所が減少している。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼間人口比率は、県内市部で最下位となっている。市外に働きに出ている人が多いことが分かる。 ・ 大柱「農業の振興」について、農家数、農家人口、耕地面積は減少傾向にあるものの、東武東上線沿線では上位レベルにある。耕作放棄地の割合は県内41市のうち第20位である。 ・ 農業については、高齢化や後継者不足等といった問題を抱えている。 ・ 今後の課題は、地産地消の拡大や優良農地の保全、後継者育成など農業を維持するための支援策及び農地利用者の確保が挙げられる。
委員	<p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビで、鹿児島島の焼酎をつくるまちが紹介されていた。農業は作って売るだけでなく、「加工」すると雇用機会が増える。働き手として高校生も参加していた。 ・ また、芋をたくさん作って品種改良し、自給率アップにもつなげていた。この辺でも芋を作れるのではないか。 ・ 富士見市には1,300～1,400の株式会社があるが、法人会に入会しているのは約660社で47～50%程度にとどまっている。これらの企業を活用したいと考えているが難しい。大企業を誘致して、雇用の機会を拡大してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業もやり方によっては、発展につながると思う。富士見市の特徴である都心に近く、開けた土地や豊富な水源を活かして研究開発機関などを誘致できないか。 ・ もうひとつ、びん沼など、人はたくさん来るがごみだけ置いて帰ってしまう箇所がある。地元の人で作った朝採り野菜を売るなど、そこで商売ができないか。あれだけ人が来るし、立地条件もよい。 ・ また、昼間人口が低いことを長所ととればよい。夕方、帰ってくるということなので、惣菜を充実させればよい。おいしい惣菜を用意すれば、わざわざ買いに来る人もいるだろう。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政としての支援策を打ち出して欲しい。前回、梨の話が出たが、それを支援する新しい施策など、農家が自立できる策を打ち出すべきである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の課題は、農業に付加価値をつけること、守るべき自然と売り出す自然を線引きすること、外から人を引っ張ってくることである。 ・ 富士見川越道路無料化に伴う交通量の増加を取り込むため、付加価値を高める研究をする必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 梨は大賛成である。また、ひとつの例であるが、近所の人で作った団子が非常においしい。そういうものを復活させ、数量を限定にして市内で売り出せば買いに来るだろう。 ・ びん沼に来る人が、団子を買って、帰りに惣菜を買いにくる流れがほしい。そのためには、商店街の中同士で協力し、連携を保つ知恵を皆で出すべきである。行政のサポートを待つのではなく、自ら名物を作り出すことが必要である。そういう意味では、南畑地区が鍵になるだろう。

<p>渋谷会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際には、60～70歳の方が梨を育てており、後継者がおらず、耕作面積を増やせないのが現状である。行政が情報を提供し、こうしたらいいという策を示す必要がある。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、行政による情報提供をしっかりと行った上で、地産地消の拡大、後継者問題の解消を進めていく必要がある。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後継者問題については、商売がうまくいけば若者が戻ってくる。後継者がいないと言っている間はうまくいかない。
<p>渋谷会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地産地消から脱却し、地産他消を目指すべきである。そのまま売っただけでは限りがある。加工や売り方を工夫し、地元の消費にこだわらず、外へ向けた取組みが重要である。そのためには、情報提供や意見を交わす場を整える必要がある。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業は商業の部分とリンクする部分がある。構想には、今議論した内容を盛り込んでいくことが考えられる。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生の就業率が悪い。農業の後継者不足もあるし、農業の学校を開き、農家への就職を支援するところまで考えていくのはどうか。 ・ 指導することにより、育成から雇用につなげるという話は今後充分議論した上で、次の構想に盛り込むことも考えられる。
<p>事務局</p>	<p>事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12ページ大柱「商工業の振興」について、市民ニーズをみると、満足度が34施策のうち最下位である。重点施策としての順位は上がった。 ・ その他、指標を見ると商業関係は非常に厳しい状況にある。 ・ 今後は商店街の支援などにより、引き続き地域振興を進める必要がある。その他の課題として、雇用機会の創出、農業・商業・工業の連携、販売経路の拡大が挙げられる。 ・ 続いて、大柱「観光の振興」について、現時点で市として大きく打ち出す取組みはない。近隣市では川越市や新座市が観光に力を入れている。 ・ 本市の今後の課題は、既存の観光資源を活かすとともに、観光資源に付加価値をつけて整備していくことや、外部に対して積極的に情報発信をしていくことである。
<p>委員</p>	<p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本市の現状として、土日に閉まっている店や、従前からのスタイルを変えず、結果として店を閉めるという傾向があるように思える。このような傾向から脱却し、活気のある商店街を復活させることが大きな課題である。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼夜間人口比率が低い本市にとって、市外に働きに出ている市民が、本市に戻って消費したくなるような商店、消費意欲が湧く品物などを検討する必要がある。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街は広すぎてきれいでもよくない。屋台など、盛り場機能があるのも

渋谷会長	ひとつの解決策になるのでは。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 駅を利用している5万人近い人をいかにして取り込むかが、商店の課題である。そのためにはある程度メインとなるものが必要である。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> この場では、そのような具体的な内容についても議論していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 富士見市は厳格と言われており、市民にとっては安心につながっているが、弾力的な運用に欠ける部分がある。厳格に、条例に書いてあるから守れ、という姿勢では身構えてしまう。外の人や企業を迎えやすい雰囲気づくりが必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 同感である。条例で決まっているからこうしないといけない、というわけでなく、条例を変えていくことも検討してほしい。そういうことが行政の知恵だと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> これからの課題は、商店街の連携である。個人では停滞している動きを、全体で考えていくべきであり、市はそのフォローアップをする必要がある。
渋谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 商工会でイベントを企画し、行政はそれを支援し、一体的な取組を進めていく必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 地元のおいしい店について、地元の方は分かっているが、よそから来た人にはわからない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 店の一覧、「ふじみ逸品ガイド」がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> あれはなかなかいい。イベントでは配っているが、積極的に活用されておらず、知らない人がほとんどである。税込につながるのだから、広報でもっと取り上げるべきである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> これからは花の季節であるので、花を活かした集客も考えられる。新河岸川やびん沼の桜を駅まで伸ばしたら人がやってくるだろう。
事務局	<p>事務局説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 13ページ大柱「消費生活の充実」について、大きな国の動きとしては、平成21年9月に消費者庁が発足した。市としては、消費生活相談を月曜から金曜にかけて実施している。相談件数は平成16年度をピークに減少している。 主な課題は、消費者意識の向上や相談体制の充実である。 続いて、大柱「勤労者福祉の充実」について、内職相談を週2回実施するなどしている。 課題は、引き続き就業機会に関する情報提供や、国・ハローワークとの連携による支援である。

<p>渋谷会長</p> <p>委員</p> <p>渋谷会長</p> <p>委員</p> <p>渋谷会長</p> <p>委員</p> <p>渋谷会長</p>	<p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際、シルバー人材センターの運営に関わっているが、ハローワークで仕事が見つからず、こちらに来る人がいる。今までは年間40～50人の登録であったが、現在は1年たたないうちに100人くらいが登録している。 ・ 登録者の雇用機会はどの程度か。 ・ なんとか、新しい仕事を開拓しようとしている。事業所の数としてはあるが、個人からの依頼による業務が多いので、雇用機会は少ない。 ・ 富士見市のシルバー人材センターは賃金が高いと聞く。雇用機会が少ないのは賃金の影響もあると思う。 ・ 賃金については、既に引下げを行っており、近隣では一番低い水準であると思う。 ・ 以前は65%の人が公共事業で稼いでいた。現場に行って、日雇いで働くという場所があった。どういう場所かというと夏は暑く、冬は寒い、精神が鍛えられる場である。そうすると簡単には仕事を止めない。 ・ 福祉の現場などは重労働で環境が厳しい。このような現場でも働くことができる若い力は潜在している。これをいかに顕在化させ、実際の就労に結び付けていくのが課題である。 ・ 自転車の整理や草むしりなど、現場の仕事はある。ただ、シルバー人材センターは60歳以上が対象であるし、危険な仕事はしてはいけないことになっている。 ・ いずれにしても、相談体制や情報提供を充実させることが今後の課題である。 ・ 本日は以上を以って終了とする。
<p>8 会議資料</p>	
<p>資料1：第4次基本構想の取組実績と今後の課題（案）【前回配布資料】</p> <p>その他資料：第3回審議会会議録</p>	